

# 地域活性化という「遊び」

62

京都市  
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいくなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

**小** 学校4年からほとんど学校に行かなくなっていました

中学も3日ほどしか登校しなかった三男ですが

先日無事??卒業しました。

卒業式

3年間で3日しか行っていないとすると

さすがに行きにくいだろうと

全く準備をしていなかったのですが

本人はそのあたり

全く気にもとめていなかったようで

直前になって出欠を問うてみますと

意外にも「行く」との返事。

式の事情を全く知らない人間が行く

となると

生徒さんも式の進行係の人も戸惑う

んじゃないかなと

問うてみますと

じゃあ前日の練習から参加すると出

かけていきました。

**我** が家の学校との関わりですが長男は小学4年生まで行かず

そのあとは休まず登校。

次男は2年生まで行ったり行かなかったり

そのあと休まず登校。

三男は前述のとおり。

今度5年生になる長女は

1年生の頃から行ったり行かなかったり

最近はまだ行っていないません。

長男次男が義務教育終了後

いろいろなこと独学で身につけて行く姿を

目の前でみているせいとか

三男長女と

学校へ行く時間が段階的に短くなっ

てきています。

そのせいか長男次男と比較すると

読み書きなどのスタートが

とても遅く

**学校だけに頼らなくても**

**子供たちは草花のように芽をだす**



図書館大好きなので菜をつかって寄付しています。

そのせいか長男次男と比較すると読み書きなどのスタートがとても遅く

のですが

4年生になったあたりから

急に興味をもち始め

漫画を読むことから始まって

卒業式当日の朝も  
コーヒーの練習を欠かさず。



椎茸の植菌も  
今年は二人に  
お任せ。



ある程度漢字が読めるようになると本も読みだし今は日本の民話にはまって地元の写真館から全集をどーんと借りてきて読み出すと話しかけても返事をしないほど集中して一日中読んでいることもありいつものまにか難しい漢字もスラスラ読めるようになっていました。



通り道ですが本を読み始めるとなにも聞こえないようです。

書く方は手紙を書くことに楽しみをみつけたようで毎日のように友達や親戚に手紙を書いているのですがそれでも書き足りないというので初対面のカフェのお客さんから住所を聞いて手紙を書くこともあります。

一 男も同様に  
二 読み書き苦手でしたが  
中二の頃  
コーヒーに興味をもって以来わからない言葉を調べながら関連書籍を読み始め

今は自分でコーヒーに関してノートを書いたりインスタグラムで自分のコーヒーの写真やその写真に合う文章を考えて投稿するのを楽しんでいます。

コーヒー以外にも料理や農業にも興味をを広げ一時期No.1の怠け者と呼ばれた三男が今では最もまじめな働き者になり二人は周囲が心配していた数年間の勉強の遅れをこの一年であつというまに取り戻した感じです。

**野** 菜を育てていてある日一斉に芽をだしたりひよろひよろだった小さな苗がある時を境にグングン伸びていくという光景をしばしば目にするのですがそれと同じですね。表面上はなんの変化もないようで土の中でしっかりと根を伸ばしたり子供は子供で日々成長しているのでしょう。限界集落も厳しく寂しい冬が終わって木々や草花も新しい芽をだしています。眩しい季節がやってきました。